

太田東西かわら版

2020.9

いっしょでも別々、 別々でもいっしょ



突然ですが、我が家の次男・進斗（ノブト）が太田東西薬局でお客様をお出迎えすることになりました。＜後継者＞の覚悟を持って。

只今26才。東京薬科大学薬学部を卒業して薬剤師免許を取得。精神科の病院薬剤師の臨床を経て、この度長崎で頑張ることになりました。父親の私から強制されたのではなく、自分の意志で決断した次第です。

「これで太田先生も息子さんに託せて、安心して引退できますね」
いや、ちょっと待ってください・・・まだ私にもお役目、あります(^-^)

「次男が薬局を受け継ぐ」。この結論に至るまで、とことん親子で本音で話し合ってきました。そのきっかけをつくってくれたのは、亡き父です。

コロナ渦でも、密葬～お別れ会～初盆と頻回に会うことになりました。必然、将来のことを真剣に話し合う時間となった。死別がなければ、「そのうちに」と棚上げになっていた問題でした。

話し合いは、別れ際の長崎空港近くの堤防でも。



家ではなく、旅先でも。



屋外でも屋内でも、着衣でも全裸でも (> <) 掘り下げて話し合いました。

いっしょに働くにあたって、労働時間や賃金など雇用条件以上に大切なことがあります。それが「働く意識」。今月号のタイトル「いっしょだけど別々、別々だけどいっしょ」という意識。

< 意識 > こそが最も重要です。

我が家4人は趣味嗜好それぞれ異なりますが、共通していることは父親の私を筆頭に、組織が苦手ということです。

それは一見、「自分勝手」「わがまま」と世間から思われる可能性があり、すでに周りからは「変わった薬局」だと思われているかも(^-^;)でも私は自信を持って生きています。なぜなら、自分軸で生きているから。

その<自分軸で生きる>と<わがままに生きる>
2つの違いは何でしょう？

自分軸で生きることは、「責任を取る」という生き方であり、わがままは「責任を放棄する」生き方です。

望む結果が得られなくても、他人からバッシングされても「それは自分がやりたいと思ってやったことだから、それでよし！」望まない結果も反響も、すべて受け入れる。一貫性のあるブレない生き方。それが<自分軸で生きる>ということです。

一方、自分勝手・わがままな人は、望まない結果や他人から批判されると「時事のせい」「他人のせい」にする習性があります。

私が親として自分の子どもに教育してきたことは、

「すべて起きた結果は、自分自身の中に原因がある」。

それがあって、今の家族があると自負しています。

妻は、**テルミー・ヒア&ヒア・ペット健康相談の<マーヤサロン>**で

息子は、**薬学と精神科で培った<メンタリスト>**として

古巣の**太田先生は、これからもお客様の<元気の源>**として♥

3人それぞれ「やり方は別々」ですが、目指す「方向性はいっしょ」。
目指すは、お客様の揺るぎない健康と明るく楽しい人生のお手伝い！

それぞれが自分軸で生きて行く。

それが『いっしょでも別々、別々でもいっしょ』の意味です。

我が家の2020年は
父の死、長男の結婚、次男のUターン、薬局に予約制と新機器導入。
コロナに負けず劣らず
<大変化>の年となっています。

その<大変化>に怯(ひる)むことなく
前向きに対処できているのは・・・
昨年10月マーマ10周年記念祭でお話した内容を実践できているから。

家族の幸不幸を決めるのは <女性次第> というお話。

<安心> という字は、
<家の中(うかんむり)の女の心> と書く。
女性の気分が安定して、女性が明るく楽しく
生きていれば、自動的に家族は幸せになる。

我が家の女性3世代→

つまり、一家の女性たちが
自分軸で生きている家族は円満ということ。



嫁姑がそれぞれ自分軸で生きていれば、互いに相手の価値観を認め合えます。
それは「相手に合わせる」のではなく、「なるほど、そう考えるんだ〜」と
認めること。自分の考えと違って、「それは違う!」と相手を批判しない。

考え方が違う中で折り合いをつけていく。そうすれば必然、相手に対する
愚痴・文句もなくなる。よって、嫁姑問題も起きない(笑)。

そして、この3世代の

“ノリの良さ”こそが

私を、息子たちを、ひいては
ご先祖様たち(亡き父)を
明るく元気してくれるのです!、(^o^)

<自分軸で生きる> って
とっても楽で、楽しいですよ😊

